

時代や社会が変わっても
スウェーデンハウスが考える
住宅の「スタンダード」は変わりません。
家で過ごす時間が増え
住環境が見直される今
快適のあるべき姿と
それを可能にする条件を考えます。

条件 1. 信じる強さと、技術力

ようこそ SS席へ。

「スタンダード」って
なんだろう。

住宅展示場で、初めてスウェーデンハウスの中に入った時、これはすごく「特別」な家なのだろうなと思った。雪の降るお正月だったのに、びっくりするほど暖かくて、歩き回りにつれて、何とも言えない安心感に満たされた。トリプルガラスの窓を、営業さんがクルリと回して見せてくれた。住宅展示場は各ハウスメーカーが最上級スペックの家を披露する場だ。スウェーデンハウスもそうなのだろう。そう思っで尋ねると、意外にも「創業当時から、これ以上も以下もない」という答えだった。これがスタンダード？そう思った。

「スタンダード」ってなんだろう。標準、平均、普通、評価の基準…国によっても、人によっても、時代や社会によっても異なる。「スタンダードな住宅」ともなれば、その考え方や条件は十人十色、千差万別だろう。自分が育ってきた環境、家族構成、健康状態、社会の状況…コスト面だって重要だ。



スウェーデンハウス
スタンダード

The
SWEDEN
HOUSE
THE PERFORMANCE FOR OUR PLANET



CONTENTS

2

[Special 1]

POWER OF SWEDENHOUSE STANDARD

スウェーデンハウス・スタンダード

10

OUR FAVORITE CRAFTS

スウェーデンハウス・スタンダード

銘品館

12

[Special 2]

花と緑あふれる暮らしを、
もっと身近に。

Live in harmony with Green!

18

[Technology]

スウェディちゃんの
なぜ？なに？どうして？

教えてムース先生！

22

[Culture]

私の小宇宙 Sweden

23

[Essay]

ウフフの我が家

24

[Performance]

たがわない約束

25

[Life Style]

mjuk@web information
Enjoy! mjuk×200%

26

[SWEDEN HOUSE CIRCLE]

Good Neighbors

企画・発行：(株)スウェーデンハウス
発行人：村井 秀壽
編集人：大竹 愛子
プロデュース：(株)DGコミュニケーションズ
制作：(株)東北新社

表紙写真：Anna Nilsson/imagebank.sweden.se

スウェーデンハウスの考えるスタンダードは、時代を超え

て受け継ぐことを前提とした、強くて健康的な家だ。北欧生まれのその考え方は、私がそれまで出会ったことのないものだった。冬暖かく、夏の冷房効率が良い、家中どこでも温度差がない。カビの原因となる結露もない。遮音性、防犯性、100年住み継げる強さ…一般的な日本家屋で生まれ育ってきたのだ。我が身に沁みついた「これくらいいいんじゃない？」の基準を、はるかに超える快適を目の前に、「これは、私には分不相応」と思ったのも仕方ないことだったと思う。こんな贅沢、なんだか申し訳ない。けれど、なかなか立ち去りがたい。居心地がいい。

隣りでは夫がテクノロジーの話に夢中になっている。何故こんなに暖かいのか？この安心感は何なのか？その答えの一つが、「隙間のない家」だった。スウェーデンハウスの「高気密・高断熱」への執念ともいうべきこだわりはとにかくすごい。壁・床の継目はもちろん、お風呂場も、天井も、コンセントの裏側まで、職人技で徹底的に隙間を塞ぐのだそう。日本特有の湿気や、地震の対策も、しっかりと考えられていた。やっぱり、「特別」な家だった——しかしスウェーデンハウスはこの特別を、自分たちのスタンダードだと、当たり前なのだと言い切った。

「特別」を「日常」に。



POWER
OF
SWEDEN
HOUSE
STANDARD

スウェーデンハウス
スタンダード





信念がある。
だから美しい。



POWER
OF
SWEDEN
HOUSE
STANDARD

スウェーデンハウス
スタンダード



つくり手の思いが宿っているモノは美しい。どうにもこうにも心惹かれる。スウェーデンハウスも、その仲間だと私は思う。これは後になって知ったことだが、創業者たちは「家をつくることは、豊かな暮らしを提供することではなければならない」という信念で、あるべきスタンダードをつくりつづけ、その技術力で、価格以上の性能と安心を実現してきたのだそう。今でこそCMなどで「高気密・高断熱」が声高にうたわれるようになってきたが、創業当時（1984年）に、その重要性を理解できる人は、そう多くはなかったはずだ。よくぞ路線を変えることなく、こんな家をつくってきたものだ。

あの日の「特別」は今、我が家の「普通」になっている。強く、優しく、美しく、暖かい。スウェーデンハウス・スタンダードは、築年数が増えても、生活スタイルが変わっても、私たち家族に我慢のいらぬ快適を与え続けている。



POWER
OF
SWEDEN
HOUSE
STANDARD

スウェーデンハウス
スタンダード

【掲載モデルハウス】
石神井モデルハウス

【モデルハウスインフォメーション】
スウェーデンハウスのモデルハウスには、一つ一つの家にも、安心して暮らせる心地よさがあります。また築年数を重ねて味わいを深めてゆく、それぞれの美しさがあります。ぜひ実際に見て、感じてください。

<https://www.swedenhouse.co.jp/modelhouse/>



住宅は、とかくノスタルジーが行き交う場所であるだけに、スタンダードと言われる姿はなかなか変わりづらいのかもしれない。しかし、家での時間はこれからますます増えていく。寒くても着込んで頑張る。結露と闘いながら春を待つ。そんな苦労は誰も褒めてくれない。このストレス社会では、我慢しなければならぬことは他に山ほどあるのだ。住環境は「こんなに快適でいいのかな」くらいがちょうどいい。あなたが幸せになっても、誰も困らない。いつかみんながそれに気づいて、我が家のこの快適が、スウェーデンハウス・スタンダードが、日本の住宅のスタンダードになるのだろうか。そうなるといい。いやきっと、そうなるに違いない。

文：上西左知子
コピーライター／スウェーデンハウスオーナー 2006年入居

SS席で暮らそう。

思うに、そもそも住宅に「分不相応」ということがあるのだろうか？住む場所や広さ、インテリアなどは、贅を尽くせばキリがないけれど、住宅の性能に関しては、誰もが健康やかに、快適に毎日を送るべきであるし、持ち家であるならば、受け継いでいける財産としての家を保有するべきだ。スウェーデンハウス・スタンダードは、創業者が信じてきたとおりの「あるべき住宅の姿」だ。

